



全野協 320-41
2018年1月12日

公益財団法人	日本野球連盟	御中
公益財団法人	日本学生野球協会	御中
公益財団法人	全日本大学野球連盟	御中
公益財団法人	日本高等学校野球連盟	御中
公益財団法人	全日本軟式野球連盟	御中

一般財団法人 全日本野球協会
アマチュア野球規則委員会
委員長 中本 尚

反則投球に関する規則改正について

2018年度の規則改正のうち、定義38の反則投球（ILLEGAL PITCH）に関する【注】の削除について、その経緯及び今年度からの取り扱いについて下記の通り説明します。

記

・定義38 【注】

「投手が5.07(a)(1)および(2)に規定された投球動作に違反して投球した場合も、反則投球となる。」

今年度の改正では、国際基準に合わせて、上記【注】が削除されることになりました。これにより、いわゆる“二段モーション”といわれる投球動作に対しては、走者がいないときにはペナルティを課すことがなくなります。つまり、走者がいない場合に違反しても、これまでのように“ボール”を宣告することはなくなります。

MLBやWBSCの国際大会において、“二段モーション”が反則投球とされないのは、定義38の【注】が英文の規則書にはないのが、一つの大きな理由でした。

さらに、外国では“二段モーション”のような動作が、威力のある強い投球をするためには理にかなっていないと考えられていることも理由の一つです。この点については、投手の投球動作について、科学的視点からの理論付けを日本野球科学研究会の専門家をお願いすることにしています。

我が国での、“二段モーション”の始まりは、何とかして打者のタイミングを外そう、打者を幻惑しようとする投球動作がルーツです。マナー面の問題としても許されない動作を規制するため当時の規則委員会では日本独自の【注】を設けて対応してきましたが、現在では打者にとっての不利益を与えるような問題はなくなってきているものの、ナチュラ



ルな投球動作とは言えない“二段モーション”と言われる動作が根絶されていないことは事実です。

今回の改正で、走者がいない場合はペナルティを課すことはなくなり、これまでしばしば問題となっていた、反則投球とする基準が不明確、大会によって適用がまちまち等の混乱はなくなるはずです。

しかし、技術的な面においても、マナーの面においても“二段モーション”は望ましい投球フォームではないという考え方に変更はなく、我々はあくまでも正規の（ナチュラルな）投球動作の確立を目指すことは変わりありません。

コリジョンルールの採用によって、捕手の“ブロック”というプレイがなくなったことにより“ブロック”という言葉も使われなくなってきました。同じように、我が国の野球界から“二段モーション”という言葉が忘れ去られる日を目指したいと思います。

今回の改正は、反則投球の取り扱いについて大きな改正ですが、指導者、選手、審判員には改正の趣旨を正しく理解していただけるよう周知・徹底をお願いいたします。

以上